

巻頭論文

映像ディスプレイの現状と展望

渡辺尚友 映像情報事業本部
PDP事業センター主管技師長

1. 映像ディスプレイの市場動向

映像ディスプレイの世界需要は、現在、テレビ用が1億1千万台、コンピュータモニタ用が約6千万台である。テレビ用はCRT方式が市場の90%以上を占めており、今後とも年率約3%の伸長が予測される。コンピュータモニタ用はCRT方式とLCD方式がディスプレイ市場の主役を担い、その性能、コスト、用途により住み分け、今後ともそれぞれ年率約10%、30%の割合で成長していくと予想される。

2. プラズマディスプレイの技術動向

現在のPDPでは特に高輝度化と低消費電力化が求められている。今後CRTに対抗していくには2~4倍の輝度効率改善が必要である。また、PDPではCRTにない独特の擬似輪郭妨害がテレビなどの動画像で発生しており、この妨害を防止するための技術開発も進められている。

3. 液晶ディスプレイの技術動向

大画面・高解像度の13~15型XGA TFT液晶の登場により、液晶モニタ市場が立ち上がろうとしている。CRTとの代替をねらい、広視野角化、高速応答化、高輝度化や色再現性の向上など、更なる高画質化の技術開発が行われている。また、液晶式プロジェクタでは小型・軽量化に加え、高輝度・高精細度・長寿命化・低消費電力化が求められ、特に輝度効率向上に向けて、新しい液晶パネル、光学系及び光源などが開発されている。